

公益の風 #53



東北公益文科大学 准教授

松尾 慎太郎

私たちはどれだけ公益的に考えることができるのか。今、「公益の風」に寄稿させていただくにあたり、あらためてこの問いと向き合いました。そのなかで、私の専門である「監査」の重要性を再認識しました。一緒に考えてみたいと思います。

「あなたは公益的に物事を考えることができているのか」と聞かれたら、残念ながら私の答えは「ノー」です。その理由は、私たちの思考には様々なバイアスが存在することを知っているからです。特に厄介なのは「確認バイアス」です。情報の海に溺れないために、私

公益大シンボルマークの三人の人物と監査



東北公益文科大学
東北公益文科大学シンボルマーク

ちは無意識に情報の取捨選択や重み付けを行っています。私たちは、ある種の「信念」や「仮説」にもとづいて、自分に都合の良い情報に注目し、自分に都合の悪い情報はスルーしてしまう傾向があります。この確認バイアスをふまえると、「私一人だけで公益的に物事を考えることには限界があります」。

ここで思い出されるのが本学のシンボルマークです。本学のシンボルマークは、三人の人物が手を取り支え合う姿を示しており、「公益」が目指す社会の調和を表現しています。このことは、「私たち」で公益的に考えることの重要性を教えてください。しかし、確認バイアスの存在をふまえて考えてみると、自分にとって都合の良い同じ立場の同じ価値観の三人が手を取り合っているだけだった場合、本当の意味での「公益」が目指す社会の調和は達成されていません。ここで重要なことは、立場や価値観の異なる潜在的な利害の対立を有している人が手を

取り合うことです。それでは、潜在的な利害の対立を有している人が手を取り合うためには何が必要でしょうか。私は、「信頼」だと理解しています。潜在的な利害の対立が存在する状況では、情報や行為の質に対して何らかのチェックを求め、潜在的な利害の対立を緩和しようとする。「監査」は、情報の質（信頼性）や行為の質（有効性、効率性、妥当性、あるいは適法性）を、第三者（監査人）が確かめ、その結果を明示的な形あるいは黙示的な形で保証する行為です。例えば、財務諸表監査は、経営者が作成した財務諸表の「信頼性（Reliability）」の程度を、職業的専門家である公認会計士または監査法人が確かめて明らかにすることによって、財務諸表利用者の当該財務諸表に対する「信頼（Reliance）」を高めると説明されてきました。この信頼の向上の結果として、情報利用者の意思決定が促進（例えば、金利の低減）されることを支持する証拠が蓄積されています。これらの証拠は、制度として強制されるよりも前から、監査が自然発生したという歴史的事実とも整合しています。

監査に対して、耳の痛いことを指摘してくる面倒なものというネガティブなイメージを持っている人がいるかもしれません。しかし、監査を意味する英語の「audit」の語源はラテン語の「audire（聞く・聴く）」であるとされています。つまり、監査という行為の本質は「聞く」ことです。監査人は、あなたの主張をよく聞いて、確認バイアスから解放されることを助けてくれます。そして、保証によって信頼を向上させ、潜在的な利害の対立を有している人と手を取り合うことを支援してくれます。本学のシンボルマークの三人の人物の真ん中は監査人なのかもしれません。

FORUM 21 (公開講座)

監査ってなんだ

2025年

12月18日(木) 18:30~20:00

酒田市公益研修センター 中研修室1
(東北公益文科大学 酒田キャンパス内)



荘内日報社「敬天愛人」2025年12月号 (Vol.201) 掲載